



2022年 12月29日
第96号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



福知山線脱線事故前夜のJR東日本 vol. 2

国府津運輸区における日勤教育で行われた会社との面談では、管理者が以下のような発言をしています。

自分がやるべきことって何？会社の進む方向とは？

会社に対する不満はない？不信感はある？他には？あとは？

不満があるからこれまで乗務以外のことをやらなかったのか？

乗務が終わればそれでいいと思っていた？委員会は何のためにあるの？

会社が目指しているものを理解しているのか？

これまで逆のことをやってきた？それじゃ社員じゃないよね？

マイプロ・提案・委員会、それ以外何やるの？足りてないことは？

具体的には？具体的には？具体的には？

会社を信用している？本音を聞きたい。

会社の目指すべき方向と真逆の人間。難しいよ。時間かかる。

会社を好きになってよ。好きじゃないでしょ。

この時間を耐えれば終わると思ってないよね？

乗務員として仕事をするのは相応しくない。不適格のまま。

当該運転士は、これまでの10日間の日勤教育で学んだこと、考えたこと、今後やっていくことを一生懸命に答えましたが、管理者に質問攻めにされ、すべて否定されていきます。そもそも日勤教育を受けるきっかけとなった事象については一切触れられていません。これを人格否定と呼ばずなんと呼ぶのでしょうか？再教育とはほど遠いものです。

**安全・事象については何も触れず1時間以上も
質問と否定を繰り返す面談は人格破壊だ！**